

(敷島南小) 学校 学校関係者評価書

令和8年2月16日(月)
(敷島南小学校) 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日： 令和8年2月13日(金) 14時45分～16時15分
(第3回学校運営協議会の議題の一つとして実施)

会場： 敷島南小学校 多目的室

参加者：

(学校関係者評価委員)

学校運営協議会委員

堀井昭 森本直美 中込寿之 中込 浩司 浅原千恵子(欠席) 岡島一浩(欠席)

PTA 代表

仲山百香(会長)

(学校側) 五味正年(校長) 中村忠廣(教頭) 信田みどり(教務主任)

I 学校側から提案された内容

- ・学校教育目標・学校経営方針
- ・学校評価(教職員、保護者、児童アンケート)に基づく自己評価書
＜各項目における達成状況と改善策＞
 1. 全体評価について
 2. 学校教育目標に関して・学校経営について
 3. 学校運営について
 4. 学習指導について
 5. 生徒指導について
 6. 地域との連携について
 7. 学校の特色について
 8. 創甲斐教育について
 9. まとめ

II 協議された主な内容

- ・「スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンの利用について」
- ・「宿題と家庭学習について」
- ・「ICT及びその活用について」
- ・「いじめの状況について」
- ・「地域との連携について」
- ・「学校の特色について」

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

学校経営方針に基づき、校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行したこと及び組織として同じ方向を向き教育活動を推進してきたことにより、今年度の教職員自己評価・児童アンケート及び保護者アンケートの結果は、全体的に肯定的回答が高い割合をしめた。このことから、本年度も敷島南小学校の総合評価は、良好な水準にあると考えられる。

Ⅱ 特徴

【教職員の自己評価】

- ・一部の設問で否定的回答(C)が見られたが、全設問において、肯定的回答(A・B)の割合が高い。学校教育目標達成に向け、経営方針が教職員の中に浸透し、組織として一貫性をもった教育活動を推進できていることがうかがえる。

【児童アンケート】

- ・肯定的回答(A・B)の割合が高く、学級及び学校が安心して過ごすことのできる居場所となっており、楽しく学校生活等を送っていると推察される。

【保護者アンケート】

- ・全体的にB回答が多いものの、ほとんどの設問において肯定的回答(A・B)の割合が高い。児童同様「子どもにとって、学校は楽しいところだと思う」、また「子どものことで相談できる先生がいるか」についても肯定的回答(A・B)の割合が高い。このことから、子どもの様子を通し保護者も学校に信頼を寄せ、その中で教育活動が展開されていると言える。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

【スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンの利用について】

- ・スマホ・ゲーム機等の利用状況から、情報活用能力の育成と合わせ情報モラル教育の充実を図る必要がある。「スマホ教室」は対象学年をさらに拡大するなど発達段階に応じた指導を検討したい。あわせて健康に留意したICTの活用についても指導していくと良い。

【宿題と家庭学習について】

- ・児童の家庭学習の質的向上に向け、多様な取組を行っていく必要がある。「家庭学習の手引き」を活用しながら児童への指導の充実を図るとともに、個々の興味関心に基づいた探究的な学習を進めていきたい。あわせて、保護者と連携し取組を進めていくことが重要になってくる。

【ICT及びその活用について】

- ・1人1台端末の持ち帰り等の機会を通じ、授業でどのようにICT機器を活用しているかを保護者へ発信するとともに、学校での学びの可視化を図り、家庭におけるICT利用への理解を深めていくと良い。

【いじめの状況について】

- ・いじめの対応については、保護者とも連携する中で指導を行っていく必要がある。未然防止、早期発見、早期対応のため、関係機関とも連携し組織で対応を行い、その防止に努めてほしい。

【地域との連携について】

- ・地域とのつながりを重視した活動は今後も継続していき、一層関わりを深めていってほしい。
- ・学校からの情報発信によって、児童や学校の様子を知ることができる。「地域に開かれた学校」を推進するため、その充実を図っていくことが望まれる。

【学校の特色について】

- ・「本校のきまり」を、保護者や地域と共有し共通理解を図ることで、一貫した指導につながっていくと考えられる。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（敷島南小学校 学校関係者評価委員） 氏名：仲山 百香

